

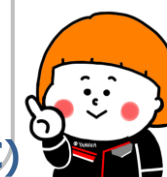
倉庫生産性可視化ツール導入による業務改善活動について

ヤマハ発動機株式会社
カスタマーエクスペリエンス事業部 SCM部 物流Gr. & GSCM推進Gr.

ヤマハ発動機の事業と製品

グローバルパーツセンター(GPC)からヤマハ発動機製品の
さまざまな補修用部品、用品アクセサリを世界のお客様へお届けしています。

➤ グローバルパーツセンター(GPC)



◆ランドモビリティ



二輪車



電動アシスト自転車

◆アウトドアランドビークル



ATV (四輪バギー)
ROV (レクリエーション・オフ
ハイウェイ・ビークル)



スノーモビル



ゴルフカー

◆マリン



マリンエンジン



ボート



ウォータービークル



プール

◆その他



自動車用エンジン



発電機



除雪機



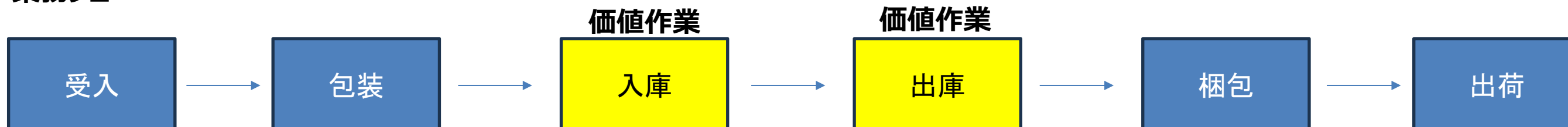
部品・用品

YAMAHA
GENUINE
Parts & Accessories

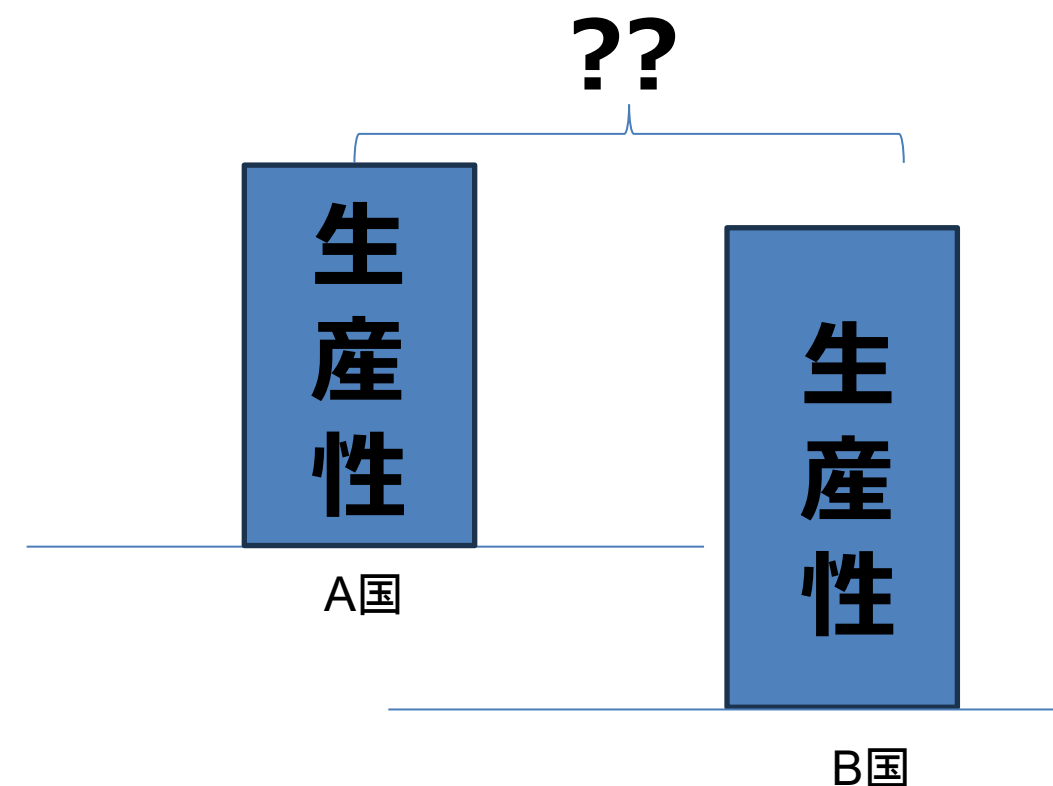
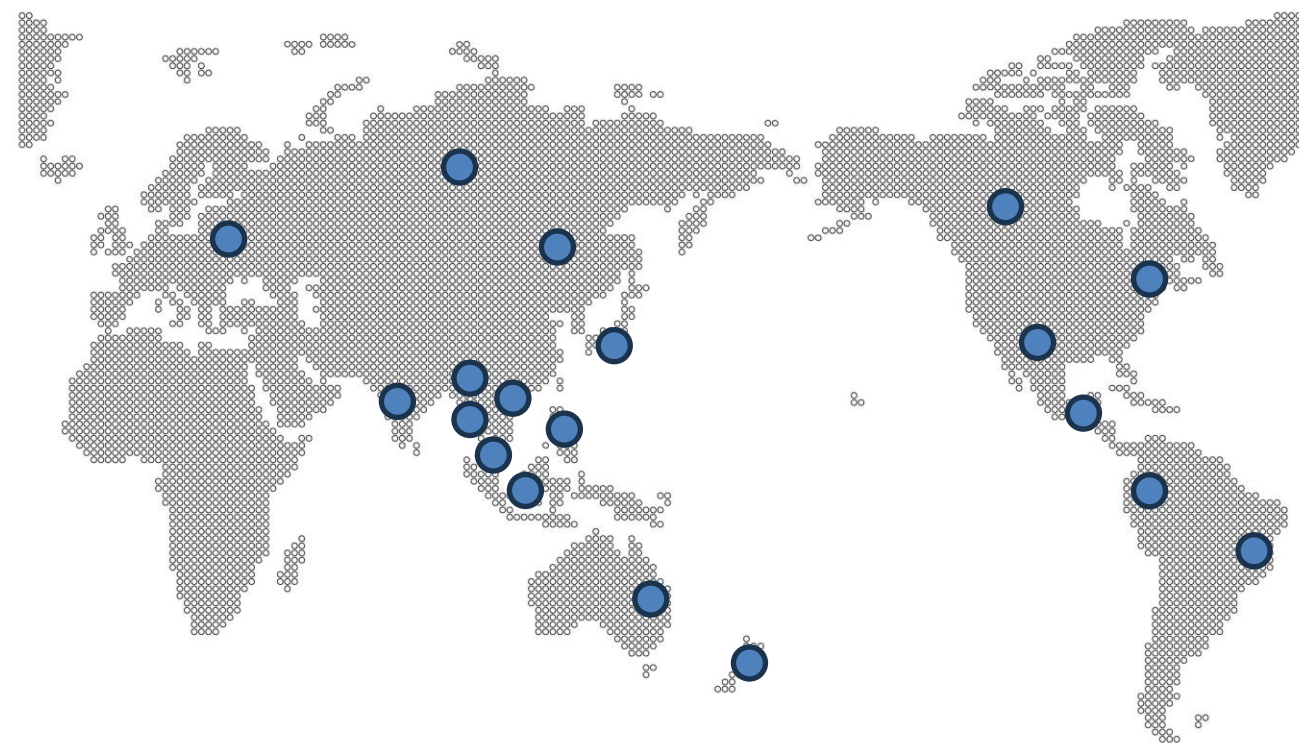
YAMALUBE
A Liquid Engine Component



業務フロー



目的：グローバル同一基準の生産性可視化と改善施策の効果確認



諸問題：アウトプット（産出量）の煩雑化、インプット（投入量）の集計対象範囲不明確

**背景：今中期経営計画によりグローバルで売上約10%増加
≡アウトプットが10%増加に耐えうる環境整備の必要有り**

1. 生産性のグローバル定義統一
2. 現状生産性把握

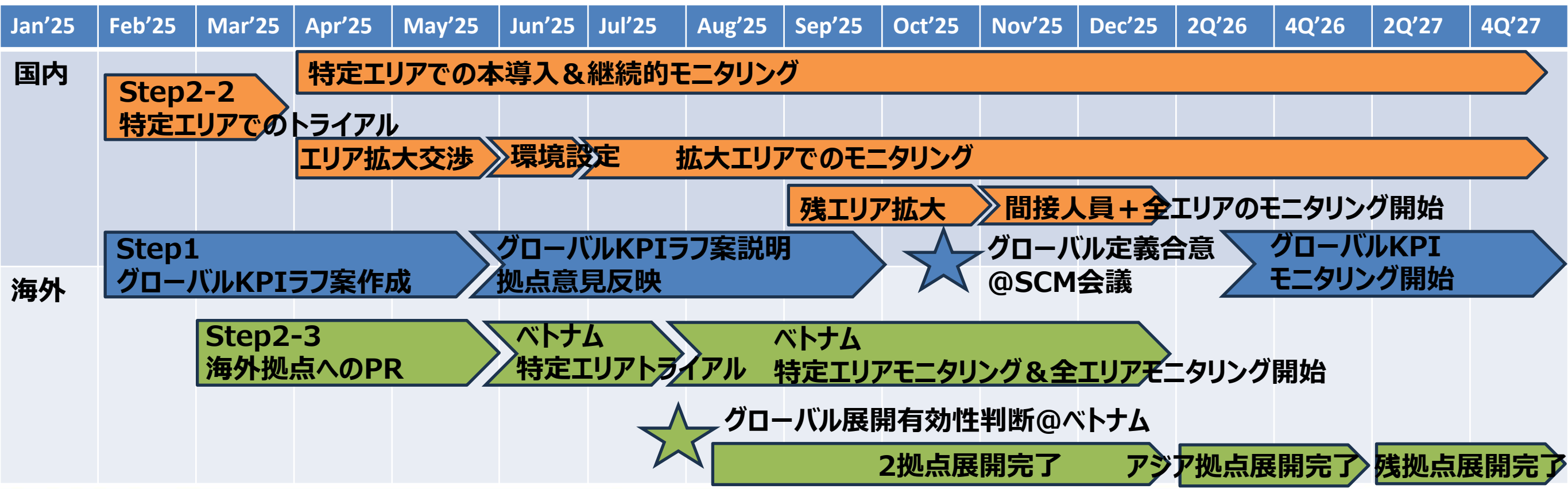
(1) 生産性把握手法検討：手軽さ、コスト面でLogimotor採用

(2) 国内導入

今回のご説明の範囲

(3) 海外導入
3. 生産性改善策検討及び改善実施

(1) 国内生産性悪化要因特定



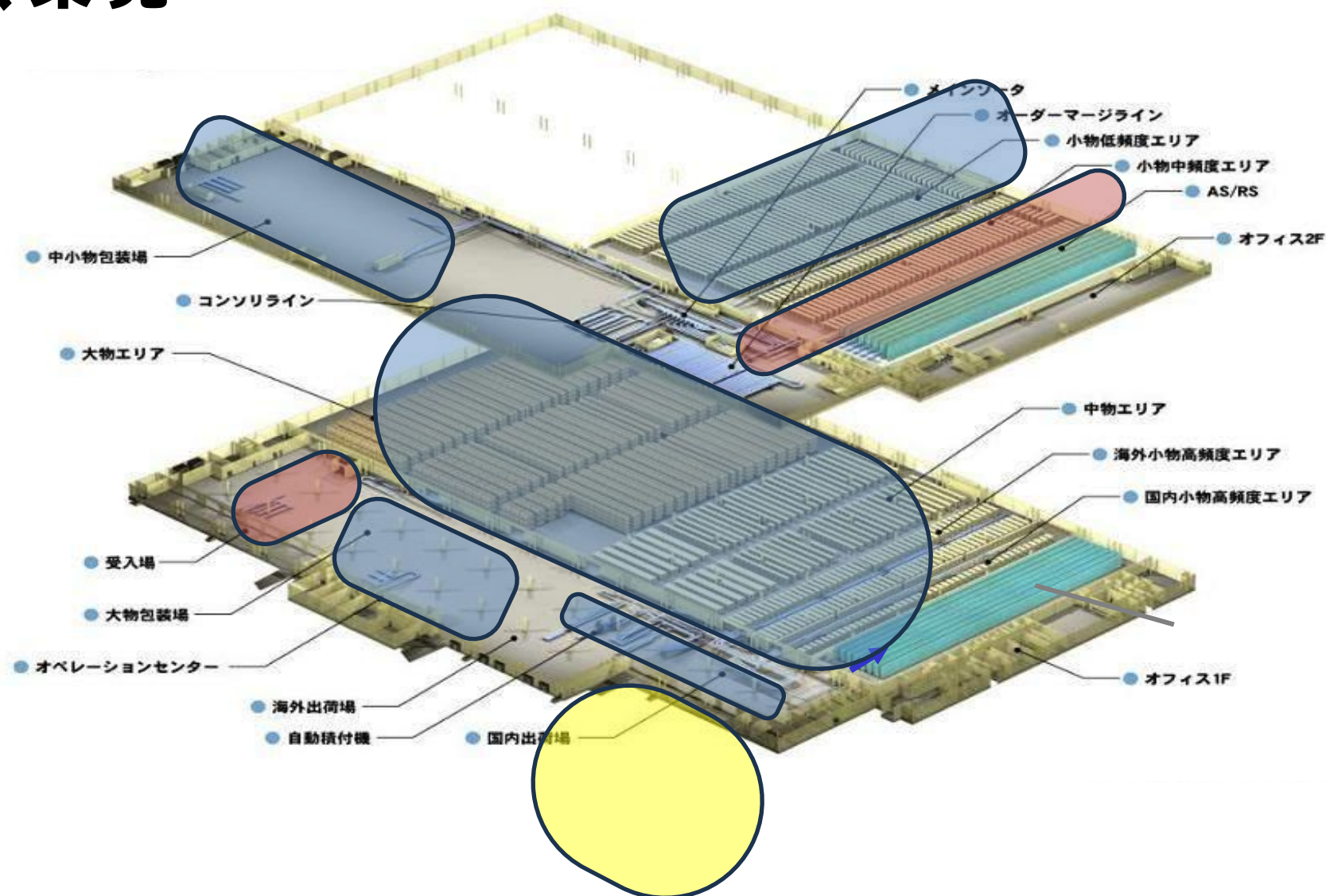
国内を取り巻く環境

業務委託割合

A社: 70%

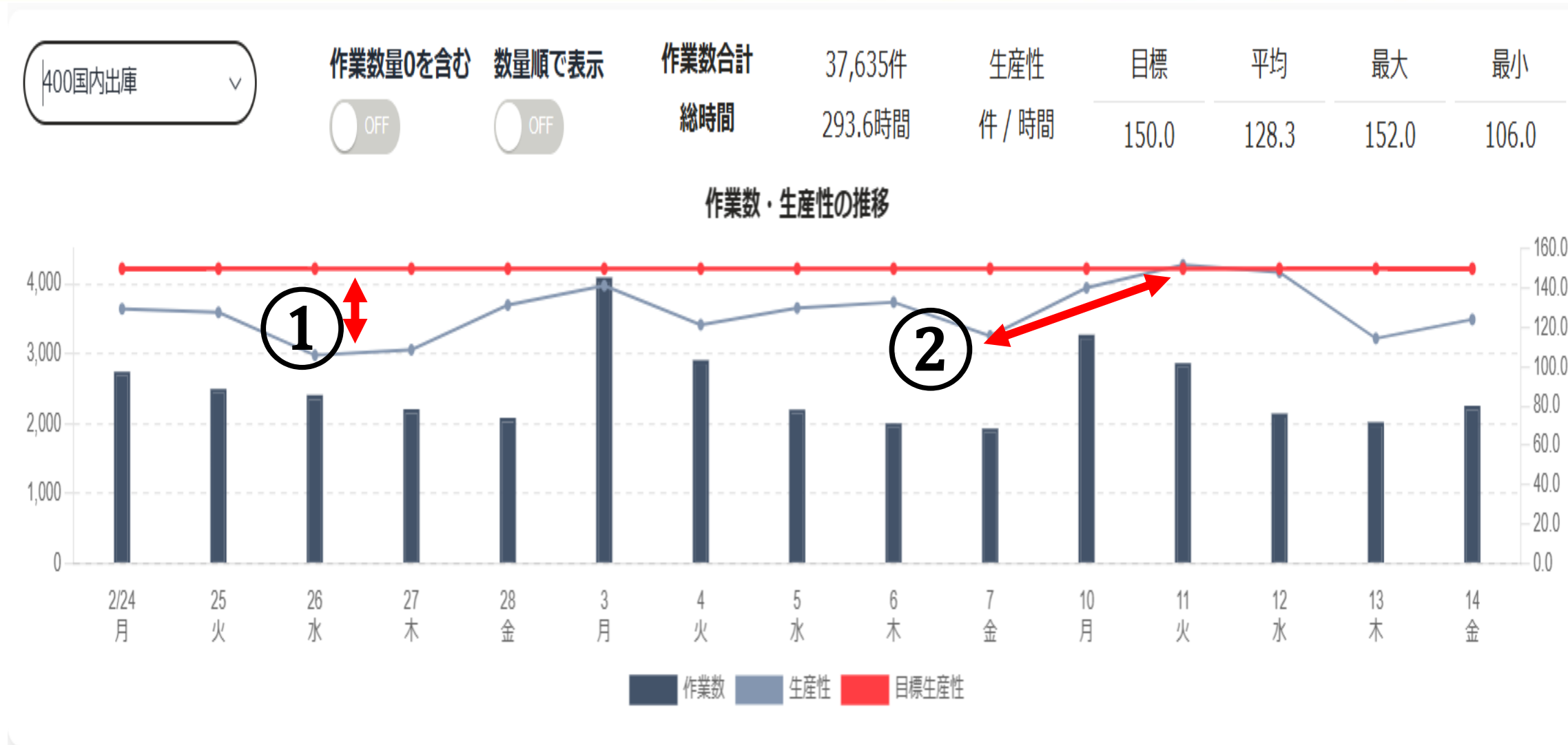
B社: 20%

C社: 10%



A社を巻き込むための環境整備が必要
→柔軟に動けるB社をトライアル先に選定し、Logimotor検証実施

2-2 国内導入（B社のトライアル結果）



トライアル結果

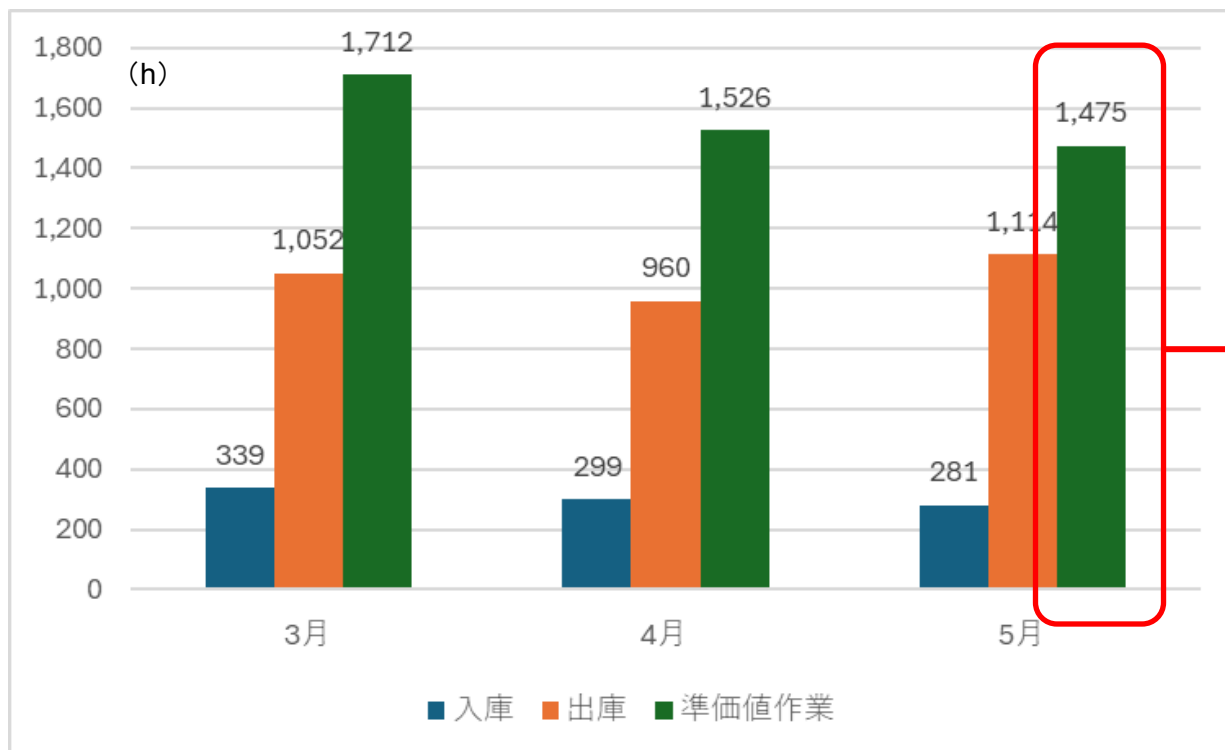
- ① 基幹システム設定の目標値との乖離：準備時間を含めたトータル労働時間測定による実態把握
- ② 曜日による生産性のばらつき

→ 生産性の実態把握に有効 ◎ 測定に掛かる負荷が許容できるレベル ◎

→ 以上の結果を基にA社、C社にPRを実施し、無事導入で合意（6月時点）

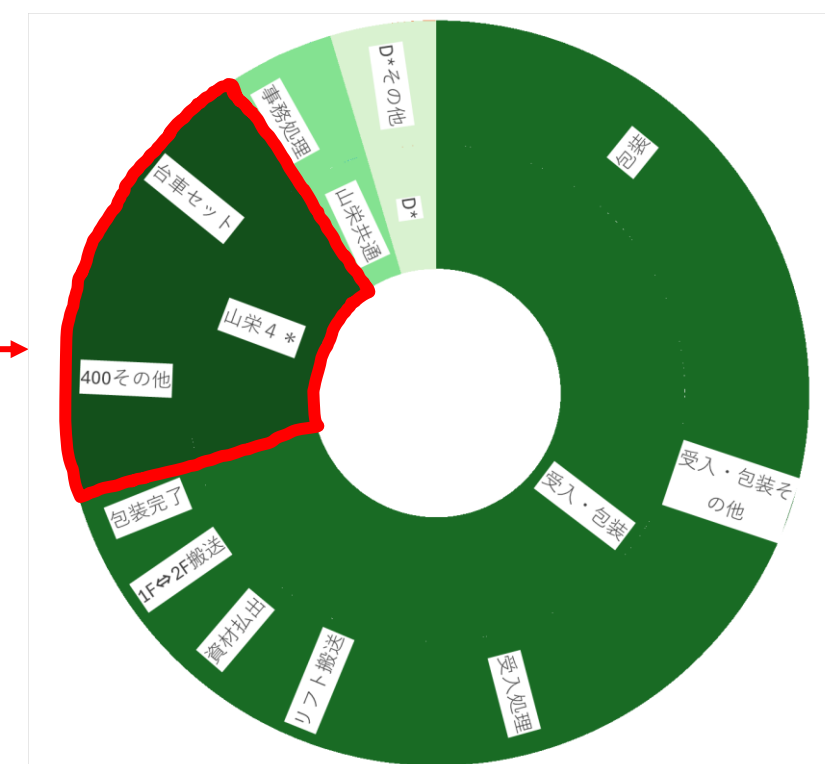
3-1 B社の生産性悪化要因特定

3ヶ月の各作業時間と生産性



作業名	3月	4月	5月
入庫	59	61	71
出庫	111	115	116

5月の準価値作業時間内訳



価値作業である入出庫生産性は毎月向上している。
一方で作業時間の中で準価値作業に占める割合が多い。
内訳を確認した結果、大半は受入/包装を占めるものであった。

台車セット



- ① 1台車でなるべく多くの部品を出庫出来るように出庫BOXをセット
- ② 出庫オーダーを台車に割当

その他



海外用

国内用

その他のメイン作業としては「ロットばらし作業」が多かった。作業理由としては、国内出庫と海外出庫の販売単位が異なるため。(例：国内1個、海外10個など) 国内向けの作業。大体全体の5%程の作業時間を占める。この作業をカットするだけで、**約5%近くの生産性向上寄与の可能性有。**

- 最適な投入人工・人員配置が不透明
- 協力会社の作業進捗に対する管理能力の低下
 - ※ 今後の計画に対しての良し悪しが感覚の部分がまだある為、
感覚＋数値で表現し、誰でも理解でき標準化できる体制を整えたい
- 改善活動を行うリソース不足
- 改善活動に対するモチベーションの低下
- 価値作業以外の時間が不明確(WSなどの実施である程度は把握)
- 包装作業については、実際に作業にかかっている時間が不明確
(部品毎/作業者毎/外注毎 など)